

交通政策審議会 航空分科会 技術・安全部会
航空機検査制度等検討小委員会(第1回) 議事概要

日時: 平成30年3月13日(火)10:00~12:00

場所: 合同庁舎2号館16階国際会議室

議事概要:

<議事(1)「本小委員会について」に対する主な質疑応答>

○特になし

<議事(2)「航空機の安全確保と取り巻く環境の変化について」に対する主な質疑応答>

○平成8年の法改正以降、どのような検査制度の見直しを行ってきたのか。

→平成17年(設計検査認定の新設)、平成18年(大型事業用航空機に対する、認定事業場での整備・確認の義務付け)にそれぞれ航空法の改正を行ったほか、省令や通達についても、その都度必要な見直しを実施している。

○今回の制度見直しは、平成8年の航空法改正時と同程度の抜本改正を考えているのか。

→平成8年時と同様、合理的な航空機の安全確保に係る国の検査のあり方や国と民間の役割分担など、大局的見地に立って検討いただきたい。

○今回の見直しは小型機も対象としているのか。

→小型機を含む全ての種類の航空機を対象とした、制度の見直し検討である。

○(MROに関して)日本の航空法による規制が及ぶのは国内のMROだけなのか。

→国内外を問わず日本登録機を整備するMROは全て日本の航空法の規制対象である。複数の国の機体を整備するMROはそれぞれの国の認定を取得する必要があるため、その負担を軽減するためにも国際的な相互承認の締結が進められている。

○航空機CO₂排出基準の新設は、他の環境変化と毛色が異なる印象だが、本件も安全性に関わる話か。

→安全性という観点では、他の項目と位置づけは異なるが、今後の航空機検査の新たな基準となるので掲げている。

<議事(3)「現行制度の評価と主な論点について」に対する主な質疑応答>

○市場が成熟し多様化していくなかで、現行の制度が「制度疲労」を起こしているのではないか。

○検査業務の増加は、検査官の増員で対応できないのか。

→国産ジェット旅客機の安全性審査のための要員を増員しているところ。増員も限られていることから、国と民間の役割の見直し等により、国が重点を置くべき点を考えていきたい。

○国と民間の役割の議論は、現在、実際に航空機検査官の業務に支障が生じたり、それが事業者への負担になっていたりするというデータをもとに議論すべき。

○航空機検査官の業務は専門性が高いので、将来的に十分な質を確保できるよう、その育成や技量維持についても合わせて検討すべき。

○新たな市場に対しては、規制強化も含めて必要な規制を考えていくべき。

○航空事故の要因別割合(資料3 図2)の「その他」はどういうものがあるか。

→鳥が機体に衝突して、機体を損傷したものなどが含まれる。

○航空機検査官の業務が増加しているとあるが、耐空証明検査の件数は減少しているところ、何が増大しているのか。

→認定事業場が国内外に増えてきており、認定事業場の検査業務が大変増えてきている。

○国際的な相互承認を進めるべく、基準の国際化を図ることが目標か。

→今回の制度見直しの大きな背景の1つとして国際的な相互承認がある。日本が設計・製造国の責務を果たしていくためにも、欧米と同等の制度・能力に育っていく必要がある。

○「装備品の整備・交換に係る制度」の見直しは、我が国の装備品基準適合証を欧米の証明書と同等のものとするということか。

→現行の我が国の装備品基準適合証も、内容や様式は既に欧米とほぼ同じであるが、国際標準との調和や欧米との相互承認の締結等により、世界で通用するものとしていくことが必要と考えている。

○今回の制度改正は、民間にも痛みを伴う改正となると予想されるが、今後、日本の航空機産業は世界に出ていくにあたって、乗り越えなければならない課題ではないか。

○我が国の実態に即した制度も重要だが、実態として欧米のルールが一種の共通言語となっているため、欧米のルールへの整合を図るべき。

○提案された論点に同意であり、見直しに協力したい。

○欧米ではどのように航空機検査官の育成や技量維持を図っているのか。

→欧米では訓練を体系的に行っているほか、メーカーやオペレーター出身の経験豊富な人間を採用している。

○今後の我が国の航空機検査官の育成、能力向上にあたって、官民交流等により、民間で現場経験を積むことも検討してはどうか。

○「型式証明保有者が実施すべき耐空性維持活動を明確にすべきではないか」とあるが、これは議論の余地がないのではないか。

→米国が行っているように体系的に不具合情報を収集し、リスク評価して必要な処置を行う体制を構築する必要があると考えている。また、欧米では法令に明記されているが、我が国では通達で運用しており、我が国でも法令に位置付けることの是非について議論が必要と考えている。

<議事(4)「今後の検討スケジュールについて」に対する主な質疑応答>

○特になし